

最新施設では、排ガスの法規制値以上の自主規制値を設定するとともに、日常の運転管理で自主規制値を順守するため、自動燃焼制御されている。また、運転管理上の基準を段階に応じて規定し、厳格な運転管理に努めている。

計画している資源循環型施設では、最新の技術によりダイオキシン類対策をはじめ、大気汚染防止法での排出基準を遵守する施設を導入していくものとする。

また、中短期目標とされていた各クリーンセンターでのプラスチック混焼率は次表のとおりである。

表 2.3.14 各クリーンセンターのプラスチック混焼率

クリーンセンター名	プラスチック混焼率	
	平成10年度	平成26年度
上田クリーンセンター	5.1%	<del>2.3%</del> 4.6%
丸子クリーンセンター	14.5%	<del>3.7%</del> 7.1%
東部クリーンセンター	11.4%	<del>1.6%</del> 3.1%

※ プラスチックは合成樹脂・ゴム・皮革類等

※ ごみ質分析結果から、合成樹脂・ゴム・皮革類等の物理組成割合による。

平成26年度におけるプラスチック混焼率は、上田・~~丸子~~・東部クリーンセンターで目標値である5%以下を達成している。引き続きプラスチック類の分別の徹底を図り混焼率の低下に努めるものとする。

長期計画である地域独自のリサイクルシステムの構築については、現段階において統合クリーンセンター等の建設がなされていないため未実施となっている。

## イ 広域連携によるCO<sub>2</sub>削減対策と削減目標

### 第1次計画

#### 中短期目標

各クリーンセンターでの省エネルギー化、ごみの脱焼却・脱埋立のために、ごみの排出抑制、生ごみの堆肥化、資源物の分別回収等の推進を積極的に実行に移していくためにソフト・ハード的な支援を検討していく。

#### 長期目標

統合クリーンセンターの建設計画において、ごみ発電による新たな代替エネルギーの検討を行う。

### 現状と課題

地球温暖化の主要因と考えられている二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスについては、ごみの焼却量の削減や新しい施設でのクリーンエネルギーの活用による排出量の削減が重要となる。

中短期目標としている各クリーンセンターでの省エネルギー化はISO14001等の導入により改善がなされている。また、ごみの脱焼却・脱埋め立てに向けた、ごみの排出抑制、